



umbrella sign

影で示す順番待ち

Concept

自然と距離を取ることができ、明るい気分になれるサイン

“with コロナ”

仕事、娯楽と感染症予防対策の並立が必要不可欠
下を向いてばかりいられない



コロナ禍で列を作って順番待ちをする場面が増えた。

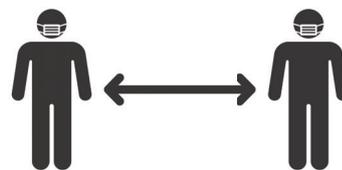
どこへ行っても足元に立ち止まる位置が示されており、下を向いてばかりいるように感じられる。

そんな風景を明るく変えるためのアイデアが umbrella sign

カラフルな傘で視界を明るく彩り、その影を用いて自然と人との距離を保ちながら並ぶことを促す。

Point

色のついた影の上に立つという感覚的に、自然と、ソーシャルディスタンスを確保できる街中に映え、気分も明るくなるようなカラフルな傘とサイン



「制約の多い世の中の癒しや希望となるように」という思いを込めて選定したカラーリング

幸

希

静

癒

Inspiration



「アンブレラ・スカイ・プロジェクト」

ポルトガル中部の街アゲダで毎年夏に開催されるイベント。
芸術祭の一環で、夏の日差しの対処法として商店街がカラフルな傘で敷き詰められる。

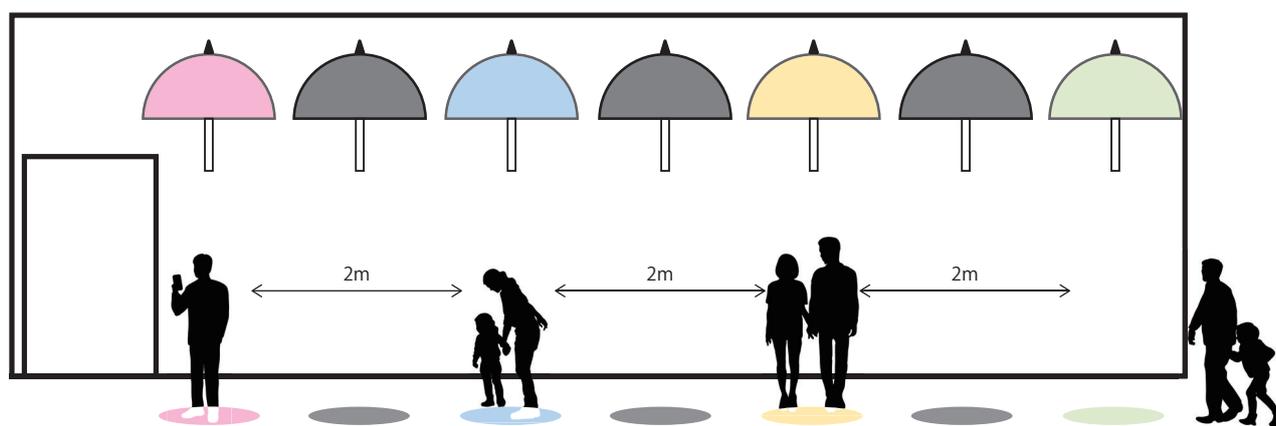


傘差し通学

- ・直射日光、暑さ対策の日傘
- ・人との距離を取る

小学生が晴れた日にも傘をさして集団登校。
熱中症対策とコロナ対策を傘差しにより両立。

Situation



ランチタイム・ディナータイムの飲食店街

店の壁に沿ってカラフルなビニール傘と布傘を交互に配置する

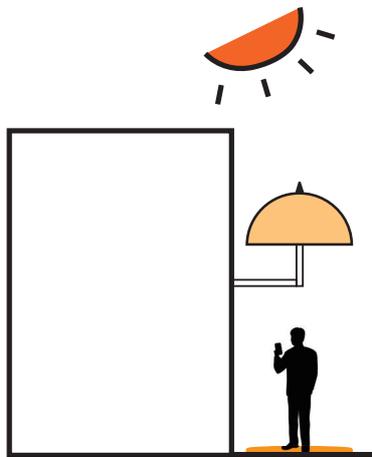
ビニール傘による色付きの影に人が並ぶことで、必然的にソーシャルディスタンスを確保



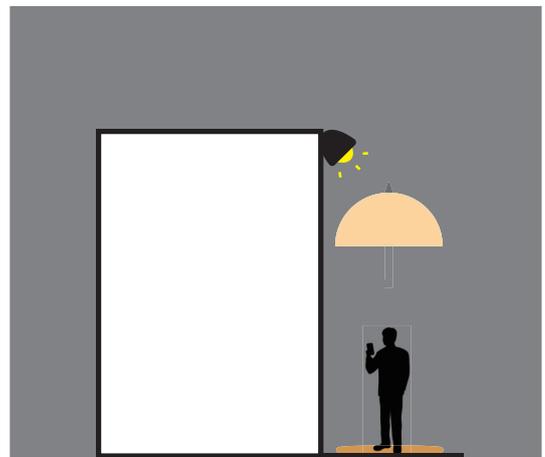
System

傘で太陽光発電

夜に使用する電力は、日中に傘の布地で発電し、蓄電しておいた電力。
布傘の素材として、薄膜太陽電池セルを織り込んだ布地を用いる。
無駄なエネルギー消費をせず、エネルギーを循環させる。



昼
太陽光によりできる、ビニール傘の色付きの影に並ぶ。布傘に設置された太陽光パネルで、夜用の電気を発電する



夜
昼間に太陽光で発電しておいた電力を使い、ライトを点灯させる。ライトにより落ちる色付きの影に人が並ぶ